

2009年度 事業計画書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

・事業計画

2009年度 活動テーマ

ヒーブ視点での情報発信 ～生活者と企業のより豊かな関係を目指して～

2008年度は、設立30周年を迎え、周年行事や「情報カード活動報告書」の編纂など精力的な活動で実り多き年となった。

景気低迷が続き、会員を取り巻く環境は依然として厳しいが、2009年度は、多くの先輩方が築いたヒーブの素晴らしい伝統を受け継ぎ、更なる飛躍に繋がられるよう、会員ひとりひとりの力を結集して活動の幅を広げていきたい。

日本ヒーブ協議会の使命は、「生活者と企業の双方を理解し、新しい価値を創造・提供することで生活者の利益および企業の健全な発展に寄与する」ことである。

その使命を果たすために、今年度の活動テーマは、『ヒーブ視点での情報発信～生活者と企業のより豊かな関係を目指して～』と設定した。

社会が劇的に変化し、また消費者問題の多い昨今、企業等の消費者関連部門に働く女性が集うヒーブだからこそできる生活者視点での情報発信を強化し、生活者と企業のパイプ役として役割を果たしていきたい。特に、昨年30周年記念で、生活者に知ってほしい情報として編纂した「情報カード活動報告書」をブラッシュアップさせ、広く内外に発信していく。そして、こういった活動を通じて、ヒーブの社会的価値向上を実現していきたいと考えている。

会員の能力・資質の向上および交流の場である月例研究会についても、プログラムを見直し、内容の充実を図る。また、会のグループ活動を推進し、全員一丸となった会の運営で、活動を活性化させていきたい。

会員自らがヒーブに参加することの意義を感じ、ヒーブの活動を通じて、自己成長および企業・社会への貢献を一層果たしていけるよう、今年も前進していきたい。

2009年度代表理事 鍵谷 泉

企画グループ

～活動目標～

1. 生活者と企業のパイプ役として、より良い仕事をするための能力向上を図る。
2. 会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
3. 会員ひとりひとりが、ヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
4. ヒーブ協議会の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
5. 会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

1. 活動目的

- (1) 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し、協議会の運営が円滑に行われるように努める。
- (2) 各支部が協議会全体テーマをふまえながら、地域性を生かした形で運営できるよう支援する。
- (3) 協議会の代表として、他団体、省庁、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、会の存在・活動を社会にアピールする。
- (4) 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し、改革を推進する。
- (5) 優れたヒーブの育成を図るため、自主的なヒーブの研究活動を支援する。また、個々のヒーブの働きを社会にアピールする。
- (6) 協議会のシンクタンクとして、テーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

2. 活動内容

- (1) 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- (2) 関西・九州支部の運営委員と適時会合をもち、支部活動の効率的な運営を図る。
- (3) 時代に合った協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- (4) その他期中に発生する課題や提案に応えるため支援を行う。
- (5) ヒーブコレクション(ヒーブバッグ)の管理及び販売、新規プロジェクトを支援する。

研究会推進グループ

1. 活動目的

- (1) 会員の能力向上
会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会・分科会等を企画・運営する。
- (2) ヒーブ協議会活動への参加促進
分科会・自主研究活動を推進し、会員一人ひとりが、ヒーブ協議会の活動に積極的に参

加できる環境づくりを目指す。

- (3) 会員相互のコミュニケーション強化・支援
 ヒーブのネットワークの強化を図り、ヒーブの企業における存在価値、社会の認知度を高める。

2. 活動内容

《月例研究会関連》

- (1) 月例研究会・見学会・キャリアアップセミナー・実践講座の企画・運営
 有識者・企業・マスコミ等による講演会、企業見学会、キャリアアップセミナー、実践講座などを企画し推進する。
- (2) 「月例研究会レポート」の発行
 月例研究会の内容をタイムリーに会員に発信し、企業へのフィードバックをサポートする。
- (3) 公開講座の企画運営
 公開講座を開催し、協議会の対外的な認知を高めるとともに、会員の拡大を図る。
 開催月は未定
- (4) 開催予定

	開 催 予 定
講演会（公開講座含む）	4月 5月 6月 7月 10月 12月 2月 3月
キャリアアップセミナー	9月
実践講座	8月
見学会	11月

《分科会・自主研究会推進関連》

- (1) 30周年記念で作成・発表した「情報カード活動報告書」を更にブラッシュアップするために、分科会で継続して取り組み、その成果を会員・企業・社会に発信する。
- (2) ネットワークの醸成の場として参画型の分科会を主軸に開催し、年間を通じて同じメンバーが同じテーマの下で研究しその成果を会員・企業・社会に発信する。
- (3) 会員が共通のテーマの下に自主的に集い研究する会の活動を支援し、より良い運営方法を検討し提案する。
- (4) 研究会成果を会員に報告するとともに、企業や社会に対しての発表を支援する。
- (5) 開催予定

	開 催 予 定
分科会	5月 6月 7月 9月 10月 12月 2月 3月
自主研究会	随時

- (6) 自主研究会
 ・食に関する研究会（東京）
 ・これからの衣生活を考える会（東京）

- ・お客様コミュニケーション技術研究会（関西）
- ・次世代マーケティング研究会（関西）
「お客様コミュニケーション技術研究会（関西）」の自主研究会は、今年度、東京分科会で継承する。それ以外の自主研究会は09年3月現在休会中。

《総会・記念講演会の運営》

- ・年1回開催する総会及び記念講演会を企画・運営する。

組織の活性化を図るグループ

1．活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

2．活動内容

（1）会員の管理と拡大

各会員へのフォローや管理を適切に行い、円滑な協議会運営を推進する。

また、会員満足度調査を定期的に行い、協議会の課題を把握し、関係グループと連携しながら組織の活性化・会員増につながる対策を検討し実施する。

（2）諸規則の見直し

企業の変化および社会の要請に対応可能な協議会となるために、諸規則の見直しなど現状に見合った基盤構築と整理を行い、協議会の拡大・活性化を図る。

（3）グループ活動の推進

協議会の組織や運営業務を明文化し、より多くの会員が協議会運営に関われるよう各グループの下に組織されるグループメンバー制度の浸透を図る。また、HP等を利用して、全会員がヒーブの一員であると感じられるような一体感の醸成に努める。

（4）懇親会の開催

会員同士がメール以外でも交流を図れるよう、名刺交換会やランチタイムを利用したミニ懇親会等の開催を検討し、年に数回実施する。

（5）新会員へのガイダンス

新・変更会員及び希望者を対象にガイダンスミーティングを開催し、協議会の概要、運営グループ、分科会、自主研究会の活動などを説明する。それと同時に、会員相互の交流を深め、運営グループや分科会活動への積極的参加を呼びかける。また、新入会員を紹介する場を設ける。

（6）理事・監事選挙

さらに開かれた理事会とするために、積極的な選挙、理事・監事への参加を呼びかける。

広報グループ

1. 活動目的

- (1) ヒーブ協議会の存在及びその活動を広く外部に報せ、理解促進および認知向上を図る。
- (2) 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

2. 活動内容

- (1) 情報発信
 - ・マスコミに向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知および理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
 - ・会員に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。
- (2) パンフレットの作成
 - ・ヒーブの活動目的と活動内容、および参加企業を広く紹介するためのツール(小冊子)「What is ヒーブ?」を年1回、機関誌「レポートヒーブ」を年2回作成する。
- (3) ホームページの運営
 - ・ヒーブ協議会と社会とのインターフェイス機能として、効率的な運用及びリニューアルを図る。
 - ・協議会活動を外部へタイムリーに発信するために情報収集を行い、充実した魅力あるページづくりを目指す。
 - ・協議会への質問・問い合わせ、公開講座や生活講習への参加申込みを受け取るページをホームページ内に設け、社会からのアプローチを受け入れる窓口として活用する。
 - ・「メンバーズオンリー」ページにて月例研究会の案内や月例研究会レポートなど会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つページとして充実させる。
- (4) 生活講習等
 - ・会員の人的財産を活用して広く講師を募集し、派遣可能な講師の充実を図る。
 - ・講師の派遣や情報カードを通じて、生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

調査グループ

1. 活動目的

- (1) 協議会の活動に沿い、社会に会員企業に役立つ生活者情報を収集する。
- (2) 収集した情報を分析し、会員の業務に役立てる。
- (3) 調査結果を広く社会に発信し、協議会の認知度アップに繋げる。
- (4) 働く女性のリーディング集団として、「働く女性と暮らしの調査」を定期的実施し、その経年変化を追って社会に提言する。

2. 活動内容

「第8回 働く女性と暮らしの調査」(定点調査)の企画から実査(アンケート回収)までを行う。具体的には企画会議でサブテーマを決定し、質問票を作成。会員とその同僚や知り合いに配布する。(1200部予定)

関西支部

1. 活動目的

- (1) めまぐるしく変化する経済環境の中で、正しい情報をより早くよりの確に求めている生活者に向けて「生活者と企業のパイプ役」であるヒーブがその役割を果たし、ヒーブ視点での情報発信を行うことで変化に即したより豊かな信頼関係の構築を目指す。
- (2) 月例研究会活動を通じて、会員一人ひとりがヒーブに求められている資質である現状把握力・問題発見力・判断力・問題解決力・プレゼンテーション力などさまざまな能力の向上を目指し行動する。その中で、会員相互のコミュニケーションをより深めることで相互に影響しあえる関係を構築し更なるレベルアップを図る。
- (3) 会員一人ひとりが上記の内容を実践し、その成果を会員自らの企業へ、そして社会へと発信することで、ヒーブの存在価値を高める。
- (4) 合同月例研究会の推進を通じて、地区を超えた会員相互のコミュニケーションを図るとともに、地域企業と生活者のより豊かな関係性を学ぶ。

2. 活動内容

- (1) 月例研究会活動
 - ・会員の資質向上を目指すとともに、各自の業務に具体的にフィードバックできるテーマを設定し、参加しやすく会員・会員企業にとって役立つ研究会活動を目指す。
 - ・引き続きほぼ全ての研究会を公開またはセミ公開とし、会員以外の方にも参加いただき会員企業への貢献度を高める。
 - ・「テーマディスカッション」では「ヒーブ視点での情報発信のあり方とは?」、「生活者と企業のより豊かな関係とは?」など本年度の活動テーマを掘り下げることを通じて、会員の活動事例発表や情報交換の機会を増やし会員相互のコミュニケーション活性化を通じてヒーブならではの「ネットワーク力」を強化する。
 - ・会員全員が研究会やテーマディスカッションのスタッフとして運営に携われるしくみを推進し、全員参加型の研究会活動とする。
- (2) 広報活動
 - ・A C A Pなど他団体との合同月例を通じてヒーブの活動内容を発信し、関西地区における協議会の存在及びその活動内容への理解度・知名度・影響力のアップを図る。
 - ・ネットワークをさらに拡大し新規会員の獲得へつなげる。
 - ・ホームページの内容充実のため、東京・九州と連動して情報の収集・発信に努める。
- (3) 組織活動
 - ・会員の協議会に対する理解を高め、会員間のより深いコミュニケーションを図るために、

- ガイダンスミーティング及びふれあいミーティングを継続して行う。
- ・協議会の活動は会員一人ひとりの参加からなることを改めて会員各自が認識し、全員参加型の研究会活動となるよう、積極的に会員に働きかけていく。
 - ・会員間の業態・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進し、その“ネットワーク”を活用しての会員一人ひとりのレベルアップ・キャリアアップを目指す。
 - ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い新規会員の獲得に努める。

九州支部

1.活動目的

- (1)「マイナスからの発想～21世紀型の企業・生活者・働き方とは～」を活動テーマとして、日本はもとより世界経済が混迷する現在、改めてヒーブとは何か、ヒーブだからできることは何かを考えたいうえで、これまでの枠組みに捉われない「21世紀型ヒーブ視点」のベースを養う。
- (2)九州でのヒーブ認知力を向上させるため、会員のスキルアップを図り、まずは、会員企業においてヒーブが理解されるよう、フィードバックやフォローの仕組みを創る。

2.活動内容

- (1)月例研究会活動
 - ・会員全員が運営に携わり、全員参加を基本とする。
 - ・年間活動テーマのもと、ヒーブ力の見直し及び、会員のスキルアップを目的とした5回程度の月例研究会に絞り込み、2カ月に一度の開催とする。
 - ・月例のチーフを中心とした各チームにおいて、講師交渉・案内状作成・会場手配などを行い、月例研究会の仕込みから当日の運営、報告書(レポートヒーブ)の作成までを担当する。
- (2)広報活動
 - ・九州地区におけるヒーブの認知度を高めるため、広報担当者を2名設置し、公開講座の案内及び活動内容等の情報発信を積極的に推進する。
 - ・マスコミへの連絡網を整理し、全員が連絡・確認できる体制を目指す。
- (3)組織活動
 - ・組織担当者を2名設置し、会員がスムーズに活動に参加できるフォローを行う。
 - ・ヒーブ会員として、各人がモラル向上できるよう、新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、運営委員会(原則全員参加)を開催する。
 - ・日本ヒーブ協議会内における、九州支部らしさを醸成及び発信するため、「自主研究会」を立ち上げ、会員のスキルアップを図る。
 - ・会員企業の協議会に対する理解を高めるために、「セミ公開」として上司、同僚を含めたスキルアップ講座を企画継承する。

・ 予算

1. 一般会計
< 収入の部 >

(単位：円)

科 目	金 額	
会 費		
正 会 員 160 名	9,600,000	
個 人 会 員 11 名	198,000	
小 計		9,798,000
入 会 金		
正 会 員 7 名	210,000	
個 人 会 員 1 名	5,000	
小 計		215,000
賛 助 会 費 44 社	2,200,000	2,200,000
雑 収 入		
預 貯 金 利 息	10,000	
特 別 例 会 費	860,000	
そ の 他	0	
小 計		870,000
合 計		13,083,000

< 支出の部 >

(単位：円)

科 目	金 額		
活 動 費			
企画活動		100,000	
研究会推進活動		3,899,000	
組織の活性化を図る活動		190,000	
広報活動		1,410,000	
調査活動		308,000	
計			5,907,000
活動費の地域別内訳			
	東京 10,607,000	関西支部 1,545,000	九州支部 931,000
運 営 費			
家賃		1,200,000	
人件費		3,000,000	
税理士費		480,000	
通信費		520,000	
交通費		500,000	
会議費		0	
交際費		0	
消耗品費		300,000	
保守料		740,000	
雑費		436,000	
計			7,176,000
総計			13,083,000